

氏 名	松本 悟 教授
こんな研究 をしています	・開発援助の制度、効果、影響（国際組織、日本政府、NGO、新興ドナー） ・調査の機能（特に環境・社会影響評価） ・メコン河流域の地域研究 ・開発と環境（自然・社会環境）
こんな成果 を挙げてい ます	▼単著 『調査と権力』東京大学出版会、2014 年。 『メコン河開発』築地書館、1997 年。 ▼編著（主編者） 『国際協力と想像力—イメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社、2021 年。 『NGO から見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま』ミネルヴァ書房、2013 年。 ▼単著論文（査読付） 「中止された環境事業の 15 年—タイ・サムットプラカン汚水処理事業がもたらしたものの」『環境と公害』49/3、岩波書店、2020 年、61-67 頁。 「開発協力における調査・権力・倫理性—世界銀行の「調査の失敗」と異なる知の共犯関係—」『国際開発研究』24/2、2015 年、35-50 頁。
ほかに、こん なジャンル に関心をも っています	上記研究分野以外に、貧困、紛争、資源、森林に関する研究であれば、大学院での指導が可能。研究方法としては、院生の研究目的に沿って、インタビューや文献を研究資料とする質的調査の指導を行う。統計データやアンケートに基づく量的調査については、主指導教員は難しいが助言であれば可能。
こんな授業 を行なって います	国際協力の概念やアクター（国際機構、NGO）の役割、開発援助の社会・文化的側面、新興ドナー（中国、韓国、タイなど）、開発や開発援助が少数民族に及ぼす影響について学ぶ。毎回文献を指定し、受講生が分担して講読・発表し、教員が補足的な講義を行う。なお、履修する院生の関心をふまえて、授業内容や使用する文献を柔軟に変更する方針である。
学会や社会 でこんな活 動をしています	NHK 報道記者（1987-92）、日本国際ボランティアセンター（JVC）ラオス事務所代表等（1992-96、ラオス労働勲章）、特定非営利活動法人メコン・ウォッチ代表理事等（1999-）、国際環境 NGO FoE Japan 顧問（2009-）、アジア太平洋資料センター理事等（2010-）、外務省開発協力適正会議委員（2011-17、20-）、JICA 環境社会配慮助言委員会委員（2011-18、20-）、ジェトロ環境社会配慮諮問委員、外務大臣や環境大臣設置の委員など。タイ・チュラロンコーン大学アジア研究所客員研究員（2018 年度）。国際開発学会常任理事（人材育成委員長）、環境アセスメント学会評議員。
私が思う多 文化的かつ、 インターカ ルチュラル な人物	私自身がそうかもしれないと思っている。学士は経済学、修士は MSc、博士は国際協力学。記者（journalism）、NGO（activism）、研究者（academism）を職業とし、政府に批判的な活動をする一方で、政府の委員会に長く関わっている。日本、ラオス、タイ、オーストラリアで活動や研究の経験を持っている。国、職業、政治的立場が異なる文化の間で何かを作り、変えていくことに携わってきた。